果樹・野菜主要害虫トラップ情報

対象害虫

果樹

１　ナシヒメシンクイ
２　モモハモグリガ
３　リンゴコカクモンハマキ
４　果樹カメムシ（クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ）

果樹・野菜共通

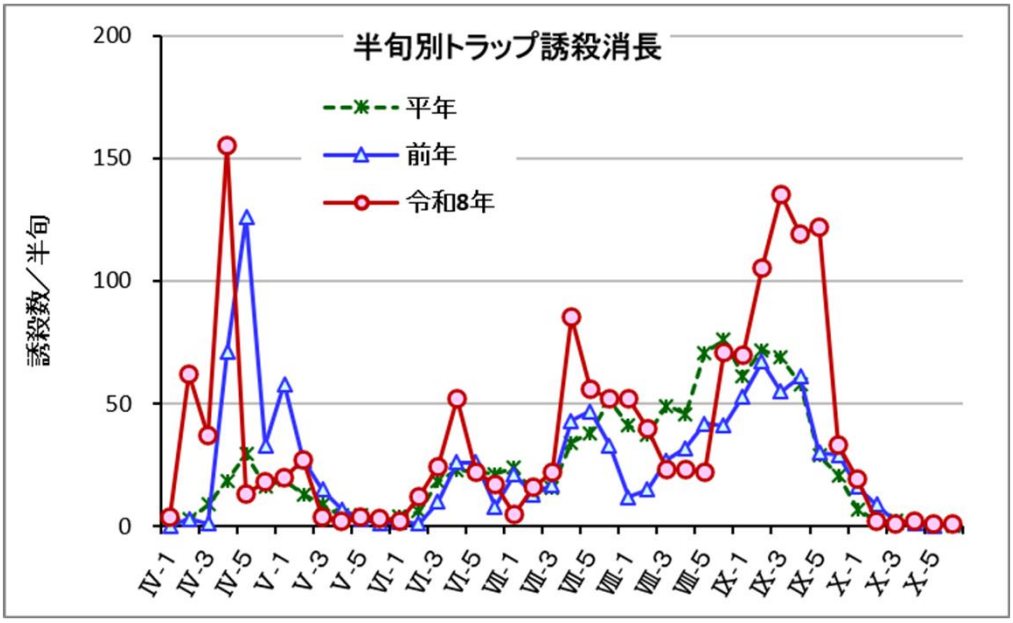
５　ハスモンヨトウ

野菜

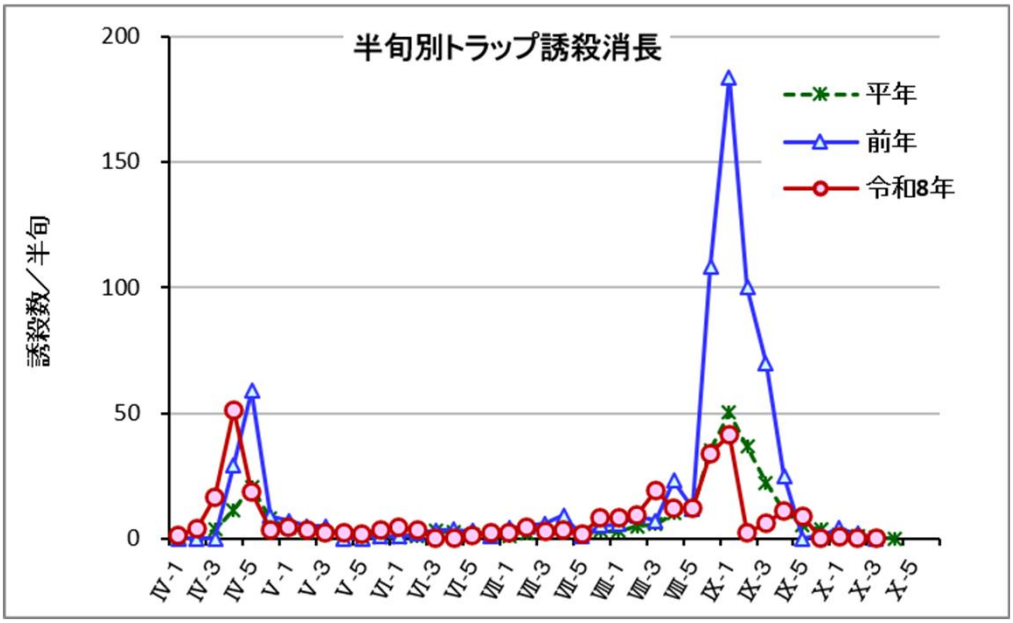
６　オオタバコガ
７　タバコガ
８　コナガ
９　シロイチモジヨトウ

ナシヒメシンクイフェロモントラップ誘殺消長図

- 発生生態と防除のポイント
  - 年4回の発生で、幼虫で越冬し春に蛹化、4月に成虫が発生する。
  - 薬剤散布時期及び回数は、第1世代幼虫では5月上旬～中旬、1～2回、第2世代幼虫は6月下旬～7月上旬、2回、第3世代幼虫は7月下旬～8月上旬、1～2回、第4世代幼虫は8月中旬～9月上旬、1～2回である。
  - フェロモントラップの誘殺消長から散布適期が推定でき、第1世代幼虫の散布適期は前世代誘殺盛期の12～22日後、第2世代幼虫は同7～9日後、それ以降は誘殺盛期直後である。



調査地点：聖籠町真野　園芸研究センター　　対象樹種：なし　トラップ種類：粘着型・SE

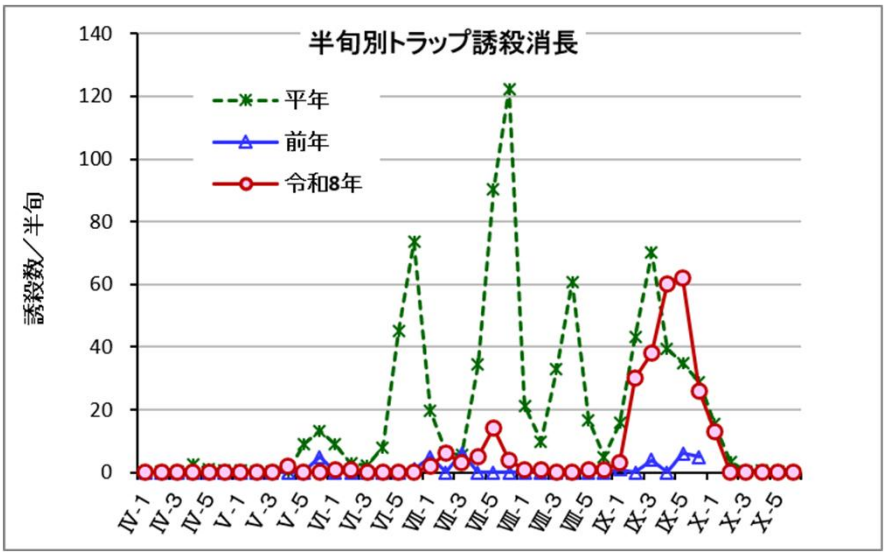


調査地点：三条市井戸場　　対象樹種：なし　トラップ種類：粘着型・SE

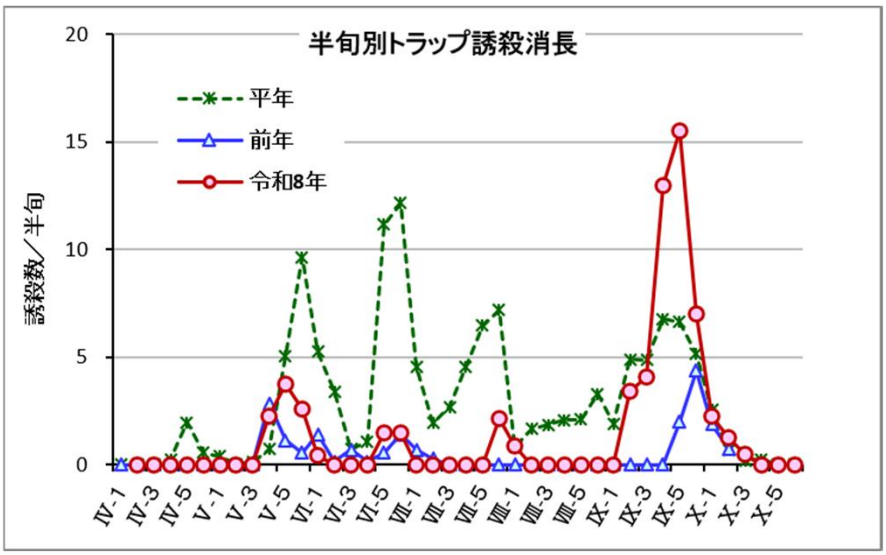
注1）　平年は、2016年～2025年の平均。
注2）　グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3）　グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。

モモハモグリガフェロモントラップ誘殺消長図

- 発生生態と防除のポイント
  - 年5回の発生で、成虫で越冬する。5月上旬頃から加害を始め、ほぼ1か月毎に世代を繰り返すが、夏以降は世代の重なりがある。
  - 薬剤散布時期は、第1世代では4月下旬～5月上旬、第2世代は6月上中旬、第3世代は7月上旬、第4世代以降は8月上旬及び8月下旬～9月上旬である。
  - フェロモントラップの誘殺消長から薬剤散布適期が推定でき、誘殺最盛日から散布適期までの日数は、越冬世代は約15日後、第1世代は約10日後、第2世代以降は約7日後である。
  - 7月以降は世代が入り混じって薬剤の防除効果があがらない場合が多いので、第1～2世代幼虫のふ化時期を重点に防除する。
  - 隣接園からの成虫飛来もあるので共同防除を行うことが望ましい。



調査地点：聖籠町真野　園芸研究センター　　対象樹種：もも　トラップ種類：粘着型・SE

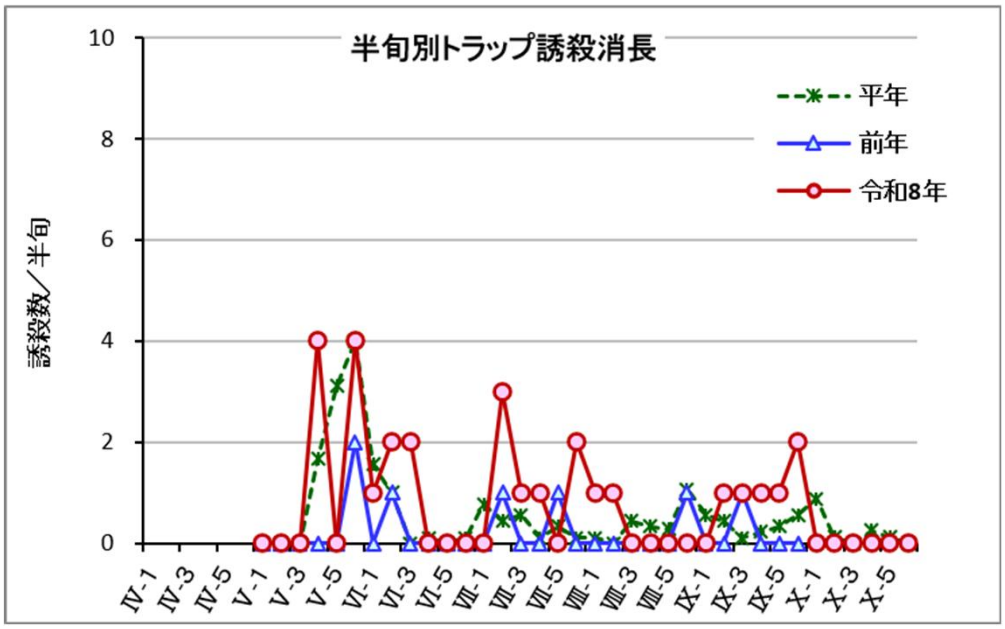


調査地点：新潟市南区清水　　対象樹種：もも　トラップ種類：粘着型・SE

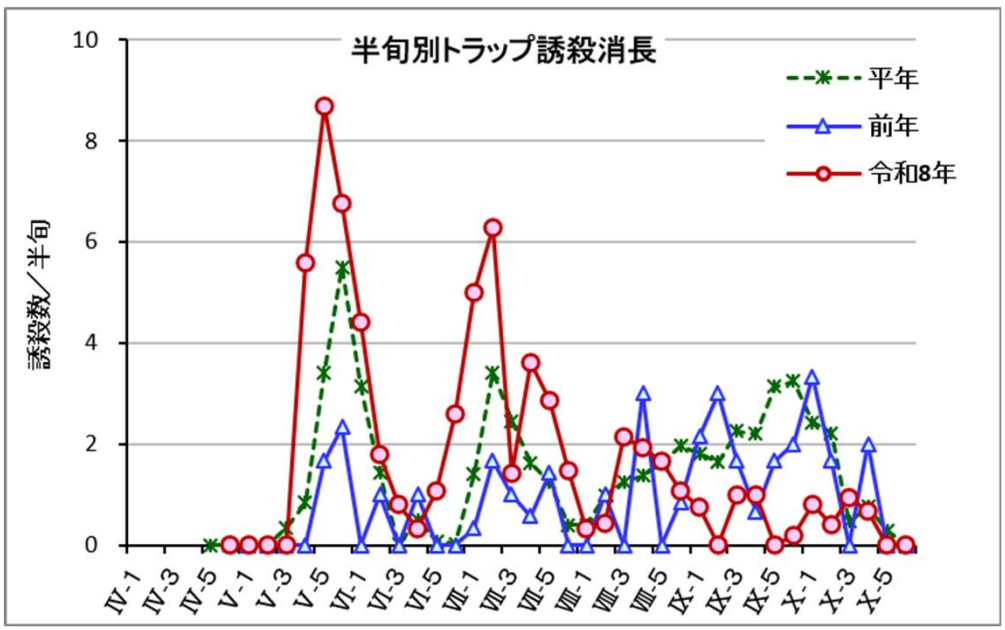
注1）平年は、2016年～2025年の平均。
注2）グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3）グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。

リンゴコカクモンハマキフェロモントラップ誘殺消長図

- 発生生態と防除のポイント
  - 年3～4回の発生で、幼虫で越冬する。
  - 薬剤散布時期及び回数は、越冬世代幼虫では4月中旬～5月上旬、1～2回、第1世代幼虫は6月中旬～7月上旬、2回、第2世代幼虫は7月中旬～8月上旬、1～2回、第3世代幼虫は9月上旬～9月中旬、1～2回である。
  - フェロモントラップの誘殺消長から散布適期が推定でき、第1世代幼虫では前世代成虫誘殺ピークの概ね20日後、第2世代は同14日後、第3世代は同10日後である。
  - 園地内のさつき、りんご等他樹木に発生がみられる場合は薬剤防除する。



聖籠町真野　園芸研究センター　対象樹種：なし　トラップ種類：粘着型・SE

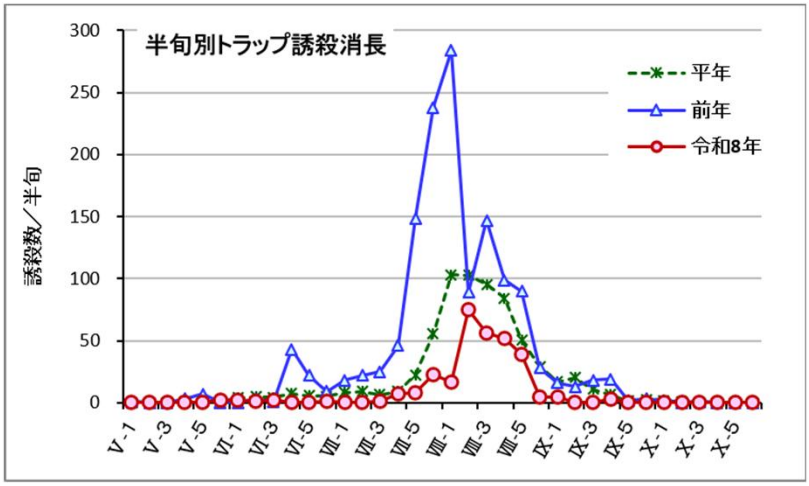


調査地点：三条市代官島　　対象樹種：なし　トラップ種類：粘着型・SE

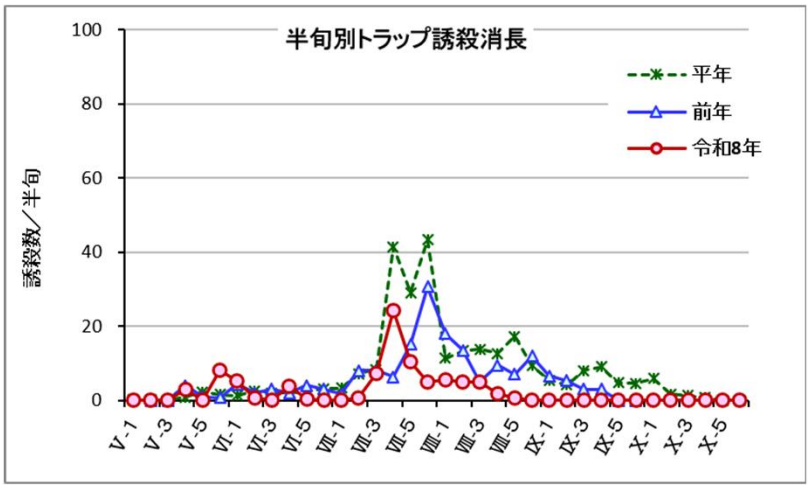
注1）　平年は、園芸研究センターは、2016年及び2018年～25年の平均、三条市代官島は2016年～25年の平均。
注2）　グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3）　グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。

果樹カメムシ類（クサギカメムシ）予察灯誘殺消長図

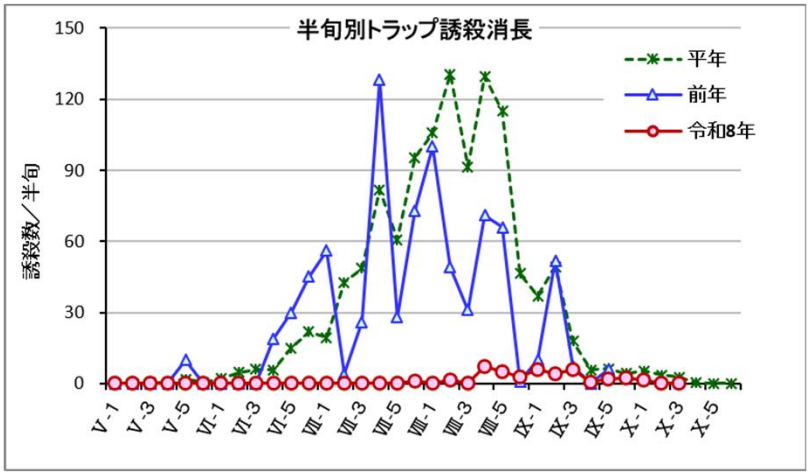
- 防除のポイント
  - 果樹カメムシ類は、年によって発生密度が大きく変動するうえ、果樹園への飛来時期も年によって異なるため、誘殺状況に注意するとともに、園内をよく観察し、成虫の飛来が確認されたら早急に薬剤を散布する。



調査地点：聖籠町真野　園芸研究センター　　トラップ種類：100W高圧水銀灯



調査地点：新潟市西蒲区伏部　　トラップ種類：100W高圧水銀灯

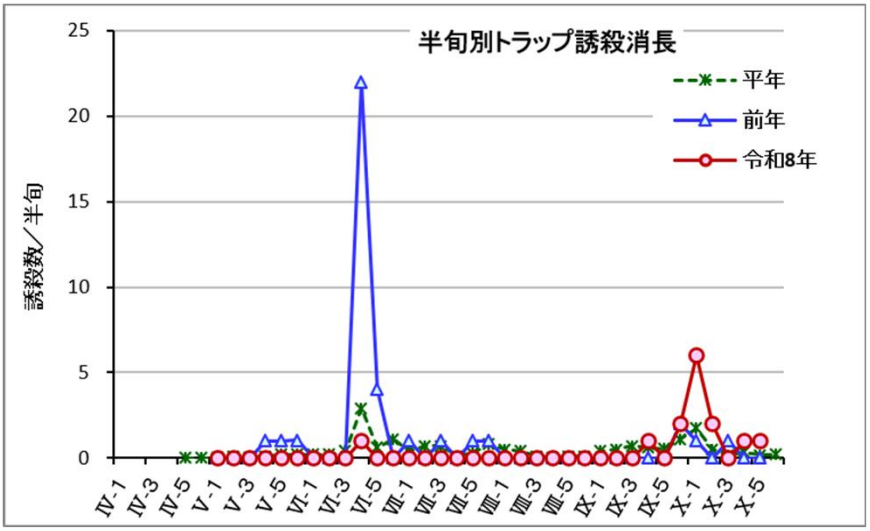


調査地点：佐渡市羽茂大橋　　トラップ種類：100W高圧水銀灯

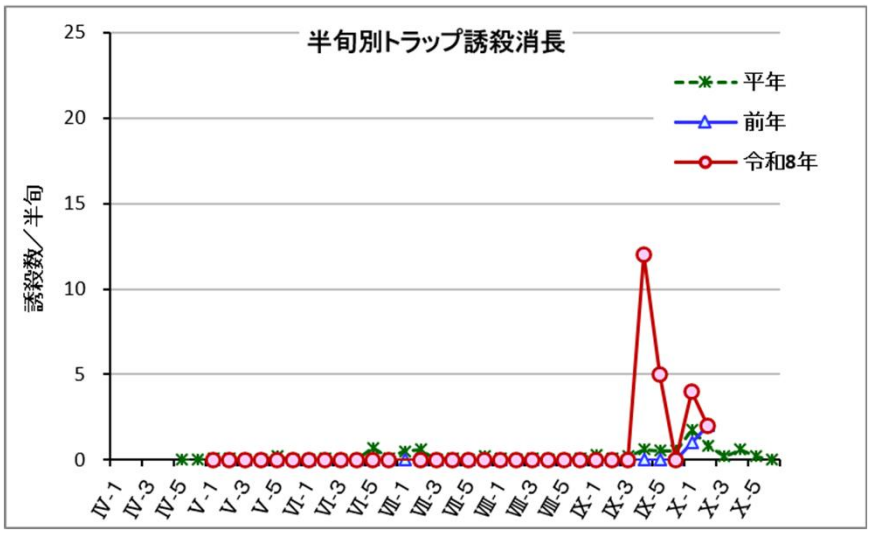
注1）　平年は、2016年～2025年の平均。
注2）　グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3）　グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。

果樹カメムシ類（クサギカメムシ）フェロモントップ誘殺消長図

- 防除のポイント
  - 果樹カメムシ類は、年によって発生密度が大きく変動するうえ、果樹園への飛来時期も年によって異なるため、誘殺状況に注意するとともに、園内をよく観察し、成虫の飛来が確認されたら早急に薬剤を散布する。



調査地点：佐渡市羽茂本郷　　対象樹種：かき　トラップ種類：水盤型・サンケイ式

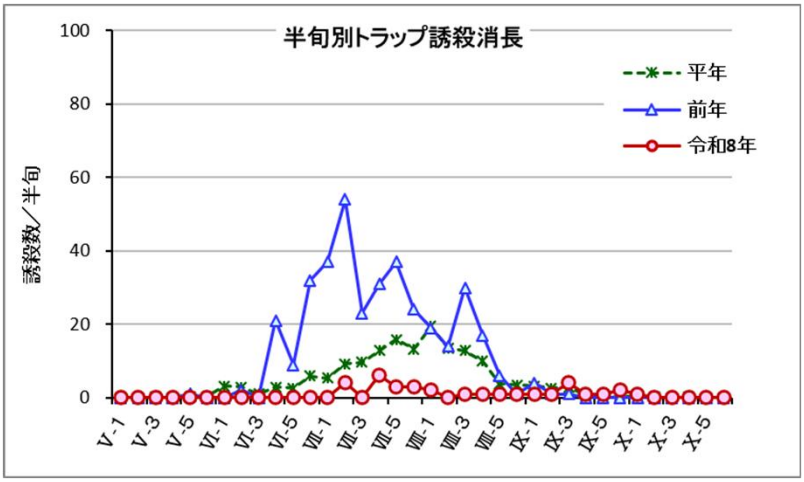


調査地点：佐渡市羽茂大橋　　対象樹種：かき　トラップ種類：水盤型・サンケイ式

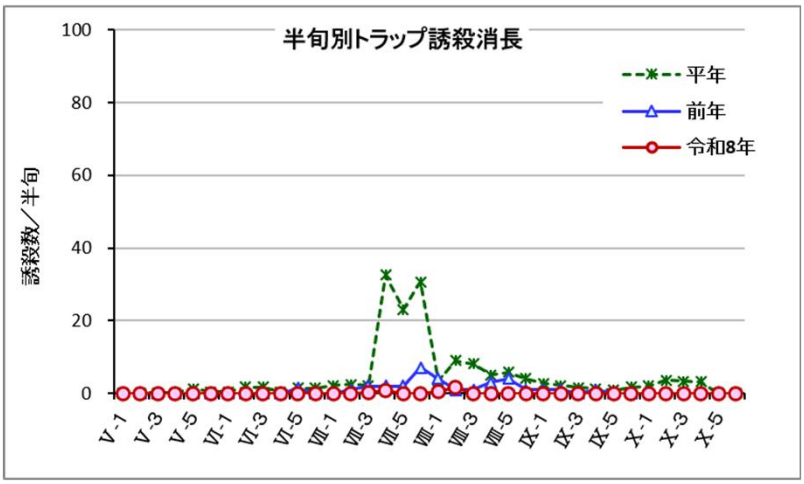
注1）　平年は、2016年～2025年の平均。
注2）　グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3）　グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）予察灯誘殺消長図

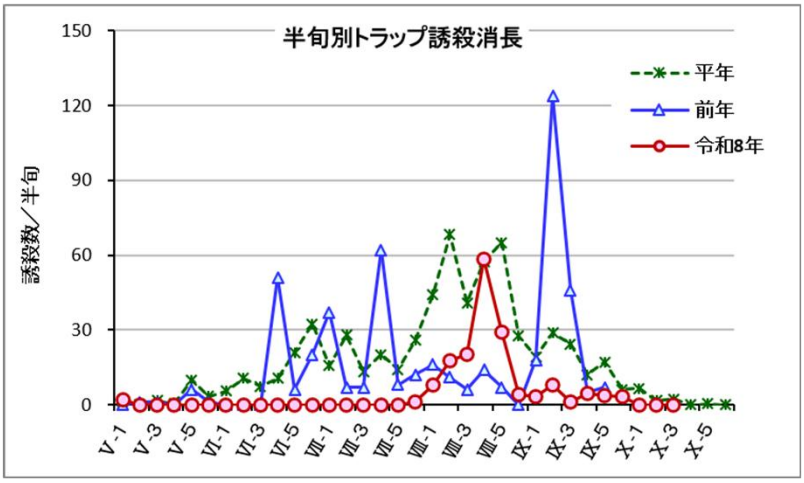
- 防除のポイント
  - 果樹カメムシ類は、年によって発生密度が大きく変動するうえ、果樹園への飛来時期も年によって異なるため、誘殺状況に注意するとともに、園内をよく観察し、成虫の飛来が確認されたら早急に薬剤を散布する。



調査地点：聖籠町真野　園芸研究センター　　トラップ種類：100W高圧水銀灯



調査地点：新潟市西蒲区伏部　　トラップ種類：100W高圧水銀灯

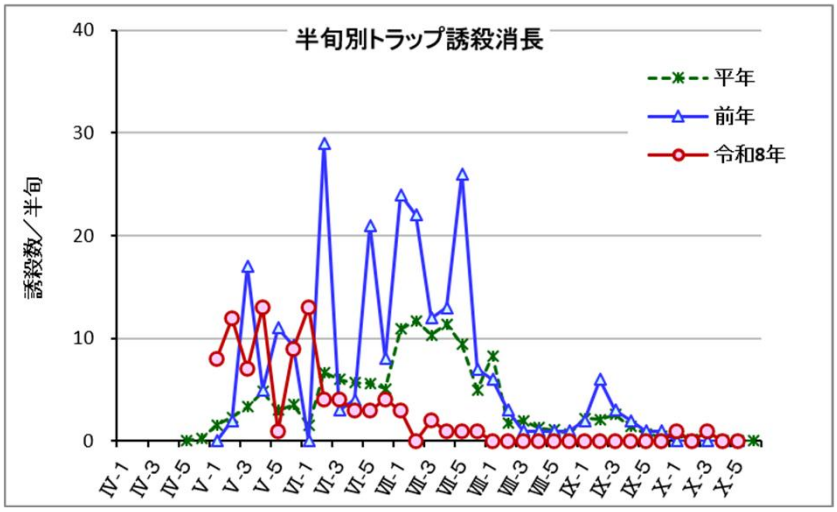


調査地点：佐渡市羽茂大橋　　トラップ種類：100W高圧水銀灯

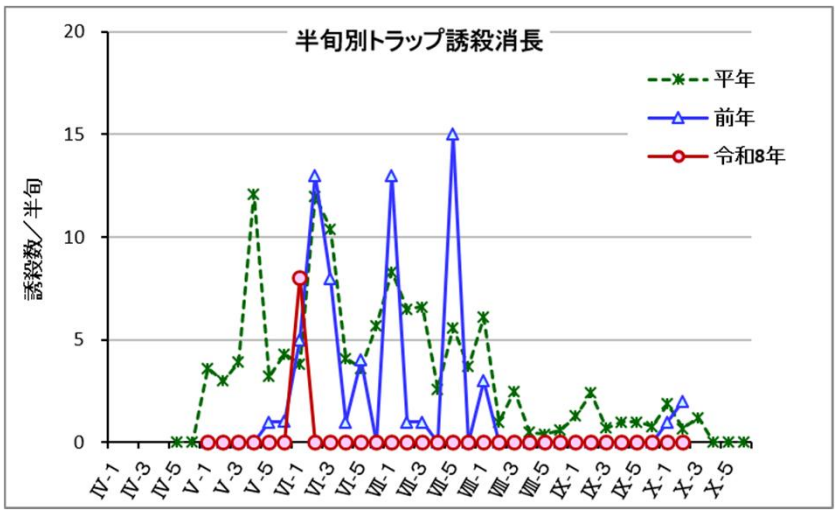
注1）　平年は、2016年～2025年の平均。
注2）　グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3）　グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）フェロモントップ誘殺消長図

- 防除のポイント
  - 果樹カメムシ類は、年によって発生密度が大きく変動するうえ、果樹園への飛来時期も年によって異なるため、誘殺状況に注意するとともに、園内をよく観察し、成虫の飛来が確認されたら早急に薬剤を散布する。



調査地点：佐渡市羽茂本郷　　対象樹種：かき　トラップ種類：水盤型・サンケイ式

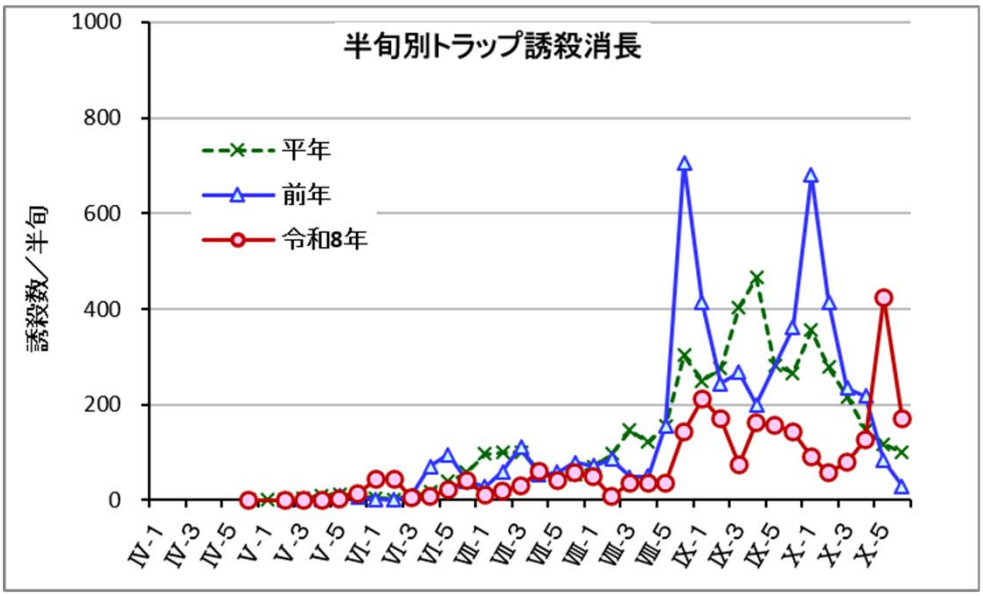


調査地点：佐渡市羽茂大橋　　対象樹種：かき　トラップ種類：水盤型・サンケイ式

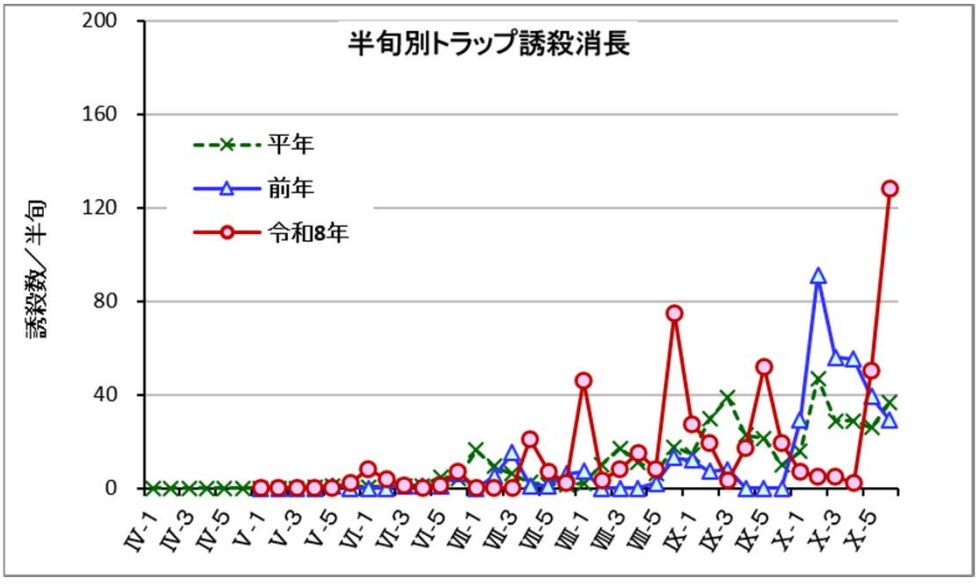
注1）　平年は、2016年～2025年の平均。
注2）　グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3）　グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。

ハスモンヨトウフェロモントラップ誘殺消長図

➢ 発生生態と防除のポイント
- 成虫は5月頃から発生し、徐々に増えながら9～10月に最も多くなる。幼虫は梅雨明け以降にさといもや大豆などで発生し、9～10月頃最盛期を迎える。多発生すると果樹園でも発生がみられ被害を及ぼす。
- 黄土色の鱗毛に覆われた卵塊を産下し、若齢幼虫は集団で葉などを加害し、齢が進むと分散して暴食する。
- 成虫は長距離移動し、突発的に飛来して密度が高まることも少なくない。誘殺状況に注意するとともに、園内をよく観察し、卵塊や若齢幼虫の集団が確認されたら早急に薬剤を散布する。



調査地点：新潟市西蒲区松野尾　　対象樹種：ねぎ　トラップ種類：ファネル



調査地点：聖籠町真野　園芸研究センター　　対象樹種：野菜　トラップ種類：水盤型

注1）　平年は2016年～2025年の平均。
注2）　グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3）　グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。

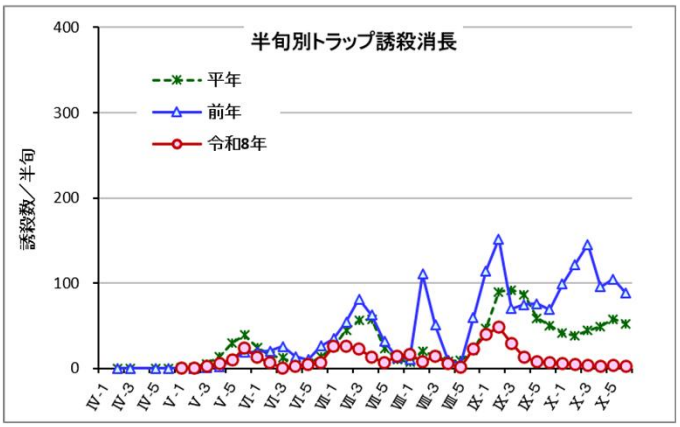
オオタバコガフェロモントラップ誘殺消長図

➢ 発生生態と防除のポイント

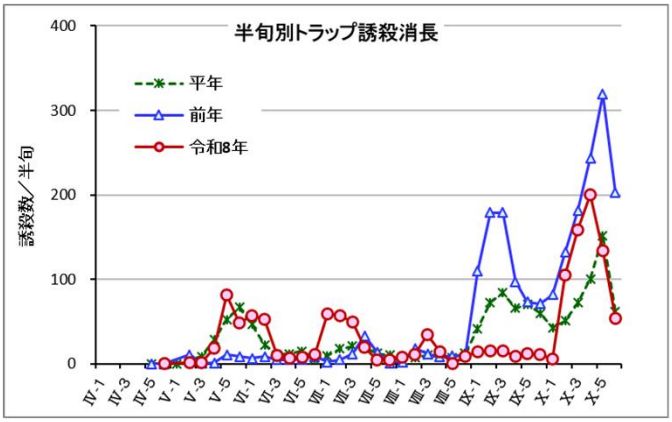
● 越冬は蛹で、年２～３回発生し、幼虫は広範囲の作物を食害する。トマト、なす、すいかやキャベツ、ブリッコリーなどのアブラナ科の露地野菜を中心に幼虫が食入する。

● 幼虫は中齢期以降、結球部、果実、花蕾などに潜り込む。被害果や被害株は内部に幼虫が生息している場合があるので、ほ場外に持ち出して処分する。

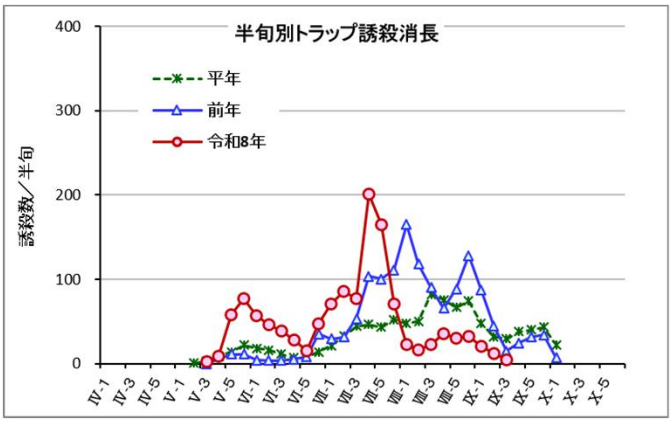
● 発生が認められる場合は早急に防除を実施する。施設栽培では開口部を防虫網で覆い、成虫の侵入防止に努める。



調査地点：新潟市西区内野　対象作物：すいか→だいこん　トラップ種類：ファネル



調査地点：新潟市西蒲区越前浜　対象作物：すいか→だいこん　トラップ種類：ファネル



調査地点：津南町沖ノ原　対象作物：加工トマト　トラップ種類：ファネル

注1） 平年は、2016年～2025年の平均。
注2） グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3） グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。

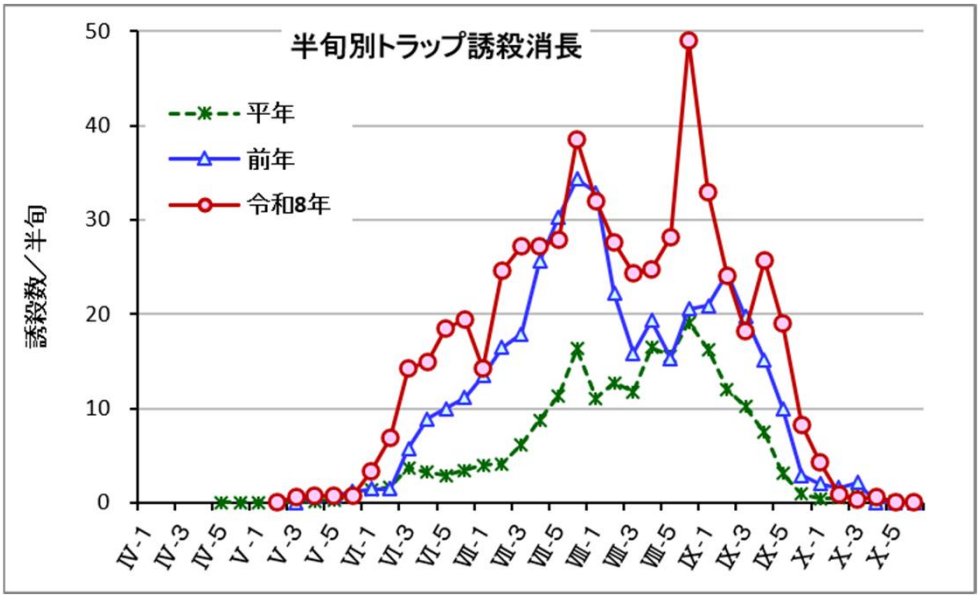
タバコガフェロモントラップ誘殺消長図

➢ 発生生態と防除のポイント

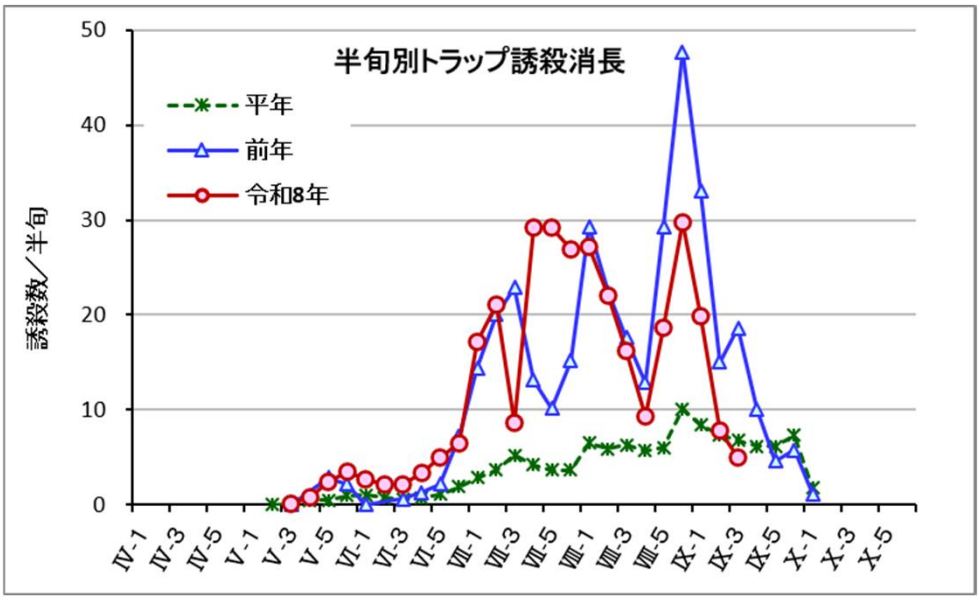
● 土中の蛹で越冬し、年間2～3回発生する。第1回成虫は5～6月現れ、7～8月が高温多照の年に多くなる。卵 は新芽、わき芽、花蕾などに点々と1粒ずつ産みつけられ、40～50日で成虫となる。

● トマト、ピーマン、タバコなどのナス科植物を好むが、レタス、カボチャ、スイートコーンなども食害する。トマト、ピーマンでは果実に孔をあけて食入するので、一旦発生すると被害が大きい。

● 被害果を早めに摘み取り処分する。成虫は枯葉や誘蛾灯で誘殺する。また、発生の多い場合には定期的に殺虫剤を散布する。



調査地点：新潟市北区白勢町　対象作物：なす　トラップ種類：粘着型・SE



調査地点：津南町沖ノ原　対象作物：加工トマト　トラップ種類：粘着型・SE

注1） 平年は、2016年～2025年の平均。
注2） グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3） グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。

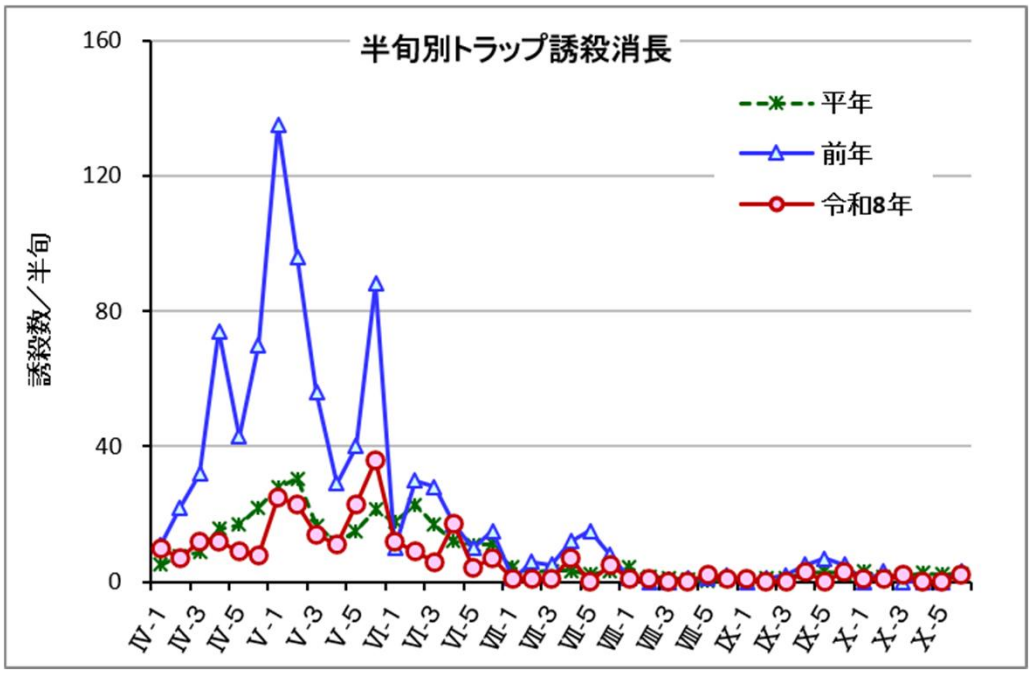
コナガフェロモントラップ誘殺消長図

➢ 発生生態と防除のポイント

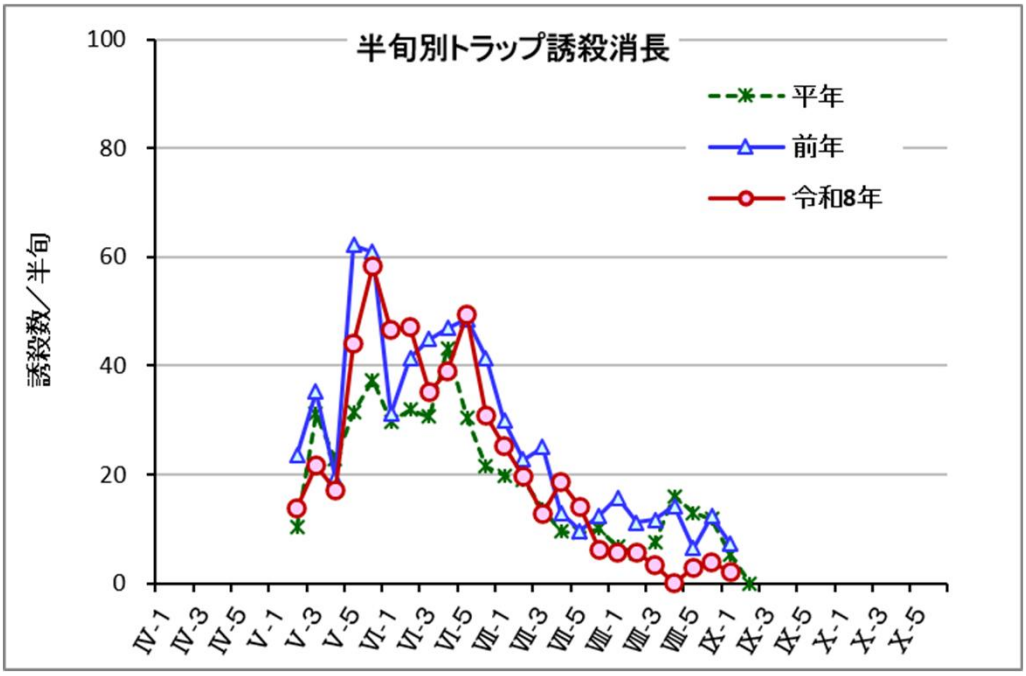
● アブラナ科野菜の重要害虫である。年間10世代くらい発生するが、一般的には晩春から初夏に発生が多くなり、盛夏に減少する。高冷地、寒冷地では夏に多発する。

● 播種、定植時に粒剤を土壌施用し、初期の密度を抑える。また、葉裏に寄生が多いので十分な薬量で丁寧に散布する。

● 同一薬剤を連用すると抵抗性がつきやすいので、作用機構の異なる殺虫剤でローテーション散布する。



調査地点：聖籠町真野　園芸研究センター　対象作物：野菜類　トラップ種類：粘着型・SE



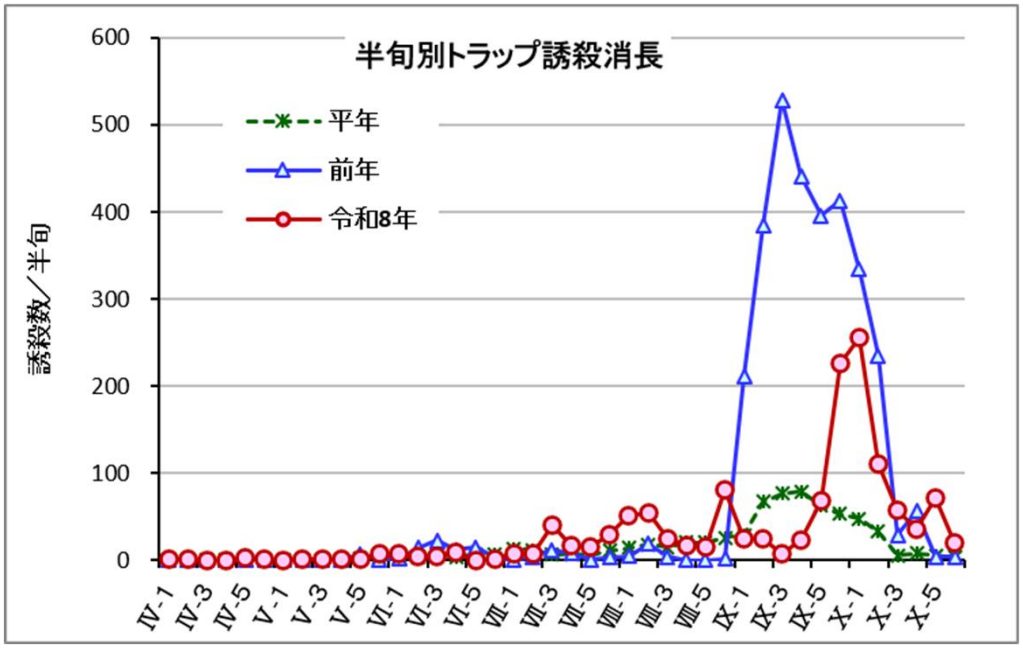
調査地点：津南町赤沢　　対象作物：キャベツ　　トラップ種類：粘着性・SE

注1） 平年は、2016年～2025年の平均。
注2） グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3） グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。

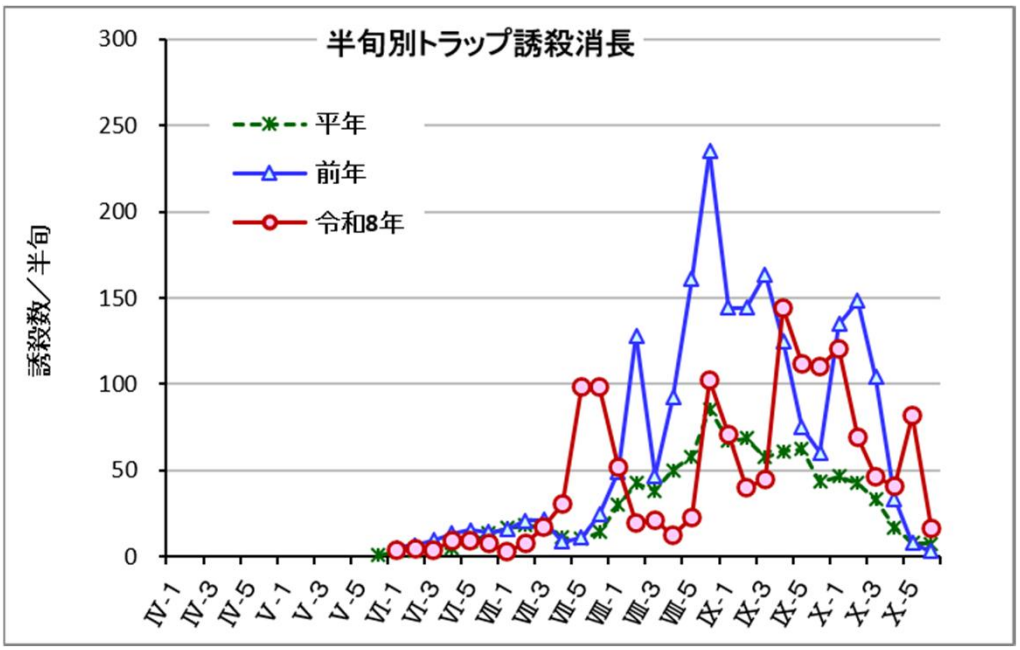
シロイチモジヨトウフェロモントラップ誘殺消長図

➢ 発生生態と防除のポイント

- ふ化後しばらくは集団で生息し、齢が進むにつれて次第に分散し、成虫は4月から11 月頃に、年4～5回発生する。
- 非常に広食性で、ねぎ類、豆類、ナス科野菜、アブラナ科野菜、花き類など50 種以上の作物を加害する。
- ほ場の見回りをこまめに行い、卵塊や分散前の幼虫は、見つけしだい葉ごと取り除く。老齢幼虫になると薬剤の感受性は大幅に低下するので、中齢幼虫までに薬剤を施用し、同一系統薬剤の連用を避ける



調査地点：聖籠町真野　園芸研究センター　対象樹種：野菜類　トラップ種類：粘着性・SE



調査地点：胎内市菅田　　対象樹種：ねぎ　トラップ種類：粘着性・SE

注1） 平年は、2016年～2025年の平均。
注2） グラフ横軸のローマ数字は調査月を表す。
注3） グラフ縦軸は誘殺頭数により自動調整されるため、調査地点毎に最大値が変わる可能性がある。